

詰碁解答 (問題は77頁)

〈正解〉

黒1のオキから打つ一手。白2には黒3が急所で、4と5が見合いとなり白死です。

〈失敗〉

黒1から打つのは白2が好防。以下白6まで半分生きられ失敗です。

詰将棋解答 (問題は77頁)

〈正解〉

▲2三金△2一玉▲3二馬△同飛▲2二角成△同飛▲3三桂△3一玉▲4一步成までの九手詰め。

〈解説〉

初手はガッチリ頭から▲2三金と押える他はない。続いて▲3二馬から▲2二角成の連続した角捨てが本题の急所。この手順が発見できれば後は桂打から歩成までの平易な追い詰め。

一般社団法人
全日本建設技術協会
令和3年度理事・監事等構成

会 長 大石 久和

副 会 長 後藤 敏行
小川 富由
小原 恒平
神山 守

理 事 西植 博
安田 吾郎
藤井 元生
高吉 晋吾
小林 秀晃
永澤 親兼
金子 勉
細島 譲
牧野 裕之
棚橋 元
津坂 英司
西出 俊亮
有路 稔
木村 圭策
植村 公彦
野田 主馬

専務理事 泊 宏

常務理事 西成 秀幸

監 事 加藤 利弘
花井 徹夫

編集後記

2020年12月号から本誌に「学ぶ・つなぐ・広げる」のコーナーを連載しています。これは、2021年1月号の「編集後記」でご紹介したように「建設技術関係者の連携交流の推進について」の報告を受けて始めたものです。

1年余の連載で、現場見学会や技術発表会での工夫、経験豊富な先輩から学ぶ取組、女性技術者の連携、建築系職員や市町村職員の全建への加入を促進し連携交流の裾野を広げる取組など、各地の様々な事例を掲載させていただきました。読者からは「参考にして自分の機関でも取り組んでいきたい」「他の機関での取組を読んで励みになった」などの声が寄せられています。また、これまで各地方協会から本部に「他の機関の事例を知りたい」等のご要望があった際に、口頭でお伝えすることが多かったのですが、文章化されたものを提供することによって、よりの確にご理解いただくことができるようになってきていると思います。

本号では、静岡県技術発表会の事例を掲載します。職員による発表会は、多くの機関で行われていることと思います。発表会は、他の職員の先進的な取組や貴重な経験を多くの人が知ることができ、異なる部署の技術者と連携交流を深める機会となります。発表者にとって、設計や工事で課題を解決した工夫等を発表することは、準備の過程で自分自身の業務や技術を見つめ直すことになり、成長していく貴重な機会となります。

静岡県では、出先機関ごとに発表会を行い、そこで優秀な成績を収めた職員が部全体の発表会に出場し、更にそこで最優秀賞を受賞した発表者が地方整備局の技術研究発表会に参加するというシステムティックに行われていることが特徴的ではないかと思えます。このようなステップがあることで、職員にとって、大きな励みになるのではないかと思います。

建設技術関係者の技術力の向上や連携・交流を図っていくことは、全建の活動の大きな柱です。これからも、皆様のお役に立つ情報を提供できるよう、努めてまいります。(本部事務局)

月刊「建設」編集委員

委員長 杉中 洋一

副委員長 野坂 周子
菅原 寛明
高原 洋介
大坪 祐紀
森田 裕介
松岡 佳秀
伊藤 直樹

委 員 藤井 佳人

増田 達
里内 俊介
大利 泰文
板倉 舞
松井 大生
道谷 健太郎
猿澤 宗一郎
石川 勝浩

委 員 山本 洸太

中村 允宣
秋山 秀樹
南 彩
河合 功介
吉川 昌孝
永野 収
桑嶋 健
三輪 晴文

(令和4年2月1日現在)

広告掲載に関するお問合せ先
一般社団法人 全日本建設技術協会 事業課 機関誌編集担当
TEL 03 (3585) 4546・FAX 03 (3586) 6640 E-mail : kensetsu@zenken.com

※本誌の内容の全部または一部について、法律で認められた場合を除き、無断で転載・複写等することを禁じます。

第66巻 第2号

発行 一般社団法人 全日本建設技術協会

〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-13 キーストーン赤坂ビル7階

TEL : 03 (3585) 4546 FAX : 03 (3586) 6640

URL : <http://www.zenken.com/>

印刷 大盛印刷株式会社 TEL : 03 (3971) 1246

(発行数59,600部)